

静かな空

連絡先 742-2513 山口県大島郡周防大島町森 365 中尾久利 Tel+ Fax : 0820-78-1246

オスプレイ 故障のまま岩国から大分へ飛行

岩国基地へ来ていたオスプレイ MV-22B が、8月28日に白煙を出しました。この機体はおそらく修理不十分のままに、翌29日に沖縄へむけて飛行再開しましたが、エンジン不調で、大分空港に緊急着陸しました。替わりのエンジンを米国からとりよせるので、それが来るまで飛行停止とか。オスプレイはすでに8月6日に、オーストラリアで墜落し、3名死者をだしています。

岩国市の「住民投票を活かす会」は8月30日、安倍首相、小野寺防衛大臣、米海兵隊岩国基地司令官、福田岩国市長に抗議文書を送り、「オスプレイの訓練を即時中止するように要望」し、瀬戸内ネットは31日、故障の実態を公開し、飛行を停止することを、国、山口県、岩国市に要望しました。

戸村良人さんが、8月28日に岩国基地で白煙を出す状態を撮影しており、その写真が各紙で報道されました。戸村さんの許可をいただいて、一連の写真を掲載します。



8月27日 15時31分 離陸したオスプレイ MV-22B ⇒



8月28日 10時35分 今日も飛行開始か。羽根をあげています。

12時48分 突然白煙を噴出しました。



12時49分 煙が右に流れた



14時27分 緊急車両出動



この MV-22B 機が、翌日 29 日の夕方 6 時半すぎに、大分空港に緊急着陸しました。理由は明らかにされていませんが、エンジンが不調で、アメリカ本国からかわりのエンジンの全部または一部を取りよせ、9 月 8 日やっと修理が終り、ひとまず試験飛行として岩国基地へ戻り、翌 9 日、離陸訓練を実施、そのまま沖縄へ飛行、普天間基地に帰着したとのことです。(中国 9.10)

事故オスプレイは岩国で白煙を出したトラブルをかかえたまま、大分まで飛行したのでしょうか。大島上空を飛行した可能性もあります。オーストラリアや沖縄の事故のように、途中墜落する可能性がかなり高かったわけで、もし 1971 年に海兵隊のスカイホークが文珠山に墜落した時のように、周防大島町内に墜落したら、悲惨な事態になります。とても再編交付金を増額延長交付してもらおう等で済むことではありません。

9 月 29 日には、普天間所属のオスプレイ 2 機が、沖縄県石垣島に緊急着陸しました。1 機に計器上に異常が発生したためだとか。こどものあぶないオモチャのような飛行機はいつまで飛ぶのでしょうか。翁長沖縄県知事は「事故が繰り返され、憤慨に堪えない」と語ったそうです。(中国 9.30)

また同日、シリアでもオスプレイ MV-22 が墜落し、米兵 2 名が負傷しました。敵から攻撃されたのではなく、故障のためとのこと。(中国 10.1)

周防大島町の町長・議長に飛行停止のための要望書

住民がオスプレイ事故に怯えることなく、毎日を安心して暮らせるために、周防大島町からも、オスプレイ飛行を取りやめるよう、強く要望する必要がありますので、9 月 5 日の大島の静かな空を守る会の定例会議で、オスプレイ飛行停止のために関係機関へ働きかけるよう、町長と議長に要望することになりました。翌 6 日、椎木町長と荒川議長に、下記の要望書を送付しました。

オスプレイ飛行停止の要請へのお願い

去る 8 月 28 日、岩国基地で、在日米軍のオスプレイ MV22 11 番機（普天間飛行場所属）が発煙するという事故が発生しましたが、同機は翌 29 日離陸、大分空港に緊急着陸して発火するという事故をふたたび惹起しました。岩国基地で発生した事故の原因を十分に確認することなく、翌日離陸して沖縄に向かい、途中でエンジンに不具合を生じて、大分で緊急着陸したという、事故であったとみられています（添付写真参照）。その杜撰な管理運用の実態には唾然とするばかりです。

この機種のおスプレイは、すでに 2015 年、米国ハワイ州オアフ島で墜落して 2 名死亡という事故が発生し、昨年 12 月には沖縄県名護市沿岸で墜落して、

原形をとどめないまでに破壊するという事故を起こしました。そして、今年 8 月 5 日にはオーストラリア北東部沖で墜落し、3 名死亡、21 人が病院に収容される惨状を呈しました。空母への着艦に失敗して海中に沈没して、死亡 3 名の大事故になったといわれています（朝日 2017.8.6）。

オーストラリアの事故の報告をうけた小野寺防衛大臣は、さすがに事態の重大さを認めて、翌 6 日に米軍にオスプレイ飛行の自粛を求めましたが、米軍はこれに答えることなく、7 日にオスプレイの飛行を再開しました。

名護市の事故は、海岸から 1 キロメートルの地点で発生し、名護市海岸で墜落したと報道されています。一般に、海上の事故は住民に危害を及ぼさないと考えられるようですが、飛行士は当然のことながら、陸地で着陸しようとするので、海上でトラブルが発生しても、墜落場所は陸地になることが多いのです。もし今回の岩国・大分の事故で機体が墜落することがあったら、大島郡に落下した可能性も十分にあります。

オスプレイという機種はすでに世界各地で事故をおこした、きわめた問題の多い機種です。岩国から九州への飛行コースの途中に位置する周防大島町住民をはじめとして、飛行区域に居住するすべての住民の安全を守るために、周防大島町から緊急に、オスプレイ MV22 の飛行の停止を米軍当局に申し入れるとともに、防衛関係機関や山口県にも、飛行停止を米軍に求めるよう、働きかけて頂きたいと思います。遺跡保存、自然保護、住民要求で海兵隊にオスプレイ飛行回数を大幅削減させたハワイ州にも学ぶべきものがあります。

1971 年に文珠山中腹にスカイホークが墜落して乗員 1 名即死、2 度の山火事発生という惨劇を体験し、戦闘機が接触して海上に墜落、山上や海岸にヘリコプターが不時着するなどの事故も見てきた周防大島町の住民が、二度と大きな事故を体験することがないために、貴職の責任あるご判断と積極的なご尽力をお願いします。

15 県知事が「日米地位協定」の改定案を政府に提出

瀬戸内ネットの「日米地位協定」についての学習会のあと、全国の「県知事会」のサブグループ「渉外知事会」が 8 月 2 日づけで、防衛省、外務省へ「日米地位協定の改定 15 項目の要望」を提出していたことがわかりました。「渉外知事会」とは、米軍基地を設置している全国 15 県の知事によって構成される会議で、会長は神奈川県知事（厚木基地）、副会長は沖縄県知事を含む 3 知事で、さすがに地位協定の内容に深く切り込む、厳しい要望となっています。基地問題の根底を規定し、自治体の介入が許されないとされている「日米地位

協定」にたいして、関係都道府県が連名で改定を求めて意見を述べ、国家権力で地域の反対をねじ伏せようとする国の政治を、地方自治の力で変えようとする画期的な民主主義の動きと言えるでしょうから、その要点を紹介します。

「要望」の要旨：

- 地方自治体の意見に耳を傾けて、住民の「生活環境」を守らせる。
- 騒音を軽減するために、飛行運用を制限する。
- 日本政府や地元自治体の職員が基地内へ立ち入ることを認める。
- 基地を返還するときは、有害物質を除いた上で返還させる。
- 市街地飛行や夜間休日飛行を制限。飛行の高度を規制する国内法を適用する。
- 住民生活に大きな影響を与える分野では、国内法を適用する。
- 米軍関係者の事件・事故には、日本の警察等が介入できるようにする。
- 地元自治体の意向を聴取し、基地運用のありかたに反映させる。
- 日本が第1次裁判権をもつ場合、米国は日本側の容疑者拘禁を認める。

大島からみた「日米地位協定」

「渉外知事会」の「日米地位協定の改定の要望」をみると、重要なことはすべてあげられているように見えますが、周防大島町で米軍機の騒音に悩まされている私たちからみると、まだまだ十分とはいえません。そこで試みに、大島から見た場合、どうしても改定しなければならない事項をあげてみます。

- 1 「大島住民がどんなに迷惑でも米軍機飛行は停止できない」のは困る。
- 2 大島を「岩国基地」へ出入りする「路線権」の区域としてはいけない。
- 3 居住地上空で高度 1219m 以下の飛行を禁止すべきだ。
- 4 宮島同様、大島上空も「基地着陸」「基地離陸」の低空飛行を禁止する。
- 5 大島上空でなく、海上だけを飛行するよう、飛行コースを制限すべきだ。
- 6 「市街地」でなくても「町民居住地」上空の飛行は禁止すべきだ。
- 7 3分～5分間隔の連続飛行は禁止すべきである。
- 8 危険なオスプレイを大島上空で飛行させてはいけない。
- 9 早朝や夜 9 時以後の爆音飛行を禁止すべきである。
- 10 岩国の米軍関係者が大島に来て住民の生活を乱すのを防止できるか。
- 11 米軍犯罪や事故に、日本の警察が手を出せないのはいけない。
- 12 米軍基地を縮小することがどこにも規定してない。
- 13 三浦などで起こった米軍機墜落事故を防止する施策が全くない。

現行「日米地位協定」では「大島町民の安心・安全」はほど遠いことです。

ポセイドン 沖縄から岩国へ来てタッチアンドゴー訓練

厚木基地から艦載機 61 機を岩国基地へもってくることを、岩国基地、山口県知事、周防大島町長などが容認しました。しかし FCLP は硫黄島で行うことになっていて、岩国市民の 43 要望も、FCLP は行わないことを要求しています。FCLP とは、陸上滑走路を航空母艦の甲板にみたてて着地し、停止しないでまた離陸する訓練で、「タッチアンドゴー」といわれています。これまで幾度も写真で紹介したように、岩国基地では毎日のように行っていますが、特に FCLP というのは、試験官がいて監視する訓練で、長時間激しく繰り返し訓練がおこなわれるものだそうです。しかし試験官がいてもいなくても、危険性は高く、騒音が激しいことには変わりはありません。

ところで戸村良人さんの写真で見ますと、沖縄県の嘉手納基地所属の米軍機 P-A ポセイドンという対潜哨戒機が、岩国基地でタッチアンドゴーの訓練を行っていることがわかりました。ポセイドンは岩国基地の上空を何回かまわる飛行をして、そのなかで数回は滑走路におりて着地し、停止しないで再び離陸するタッチアンドゴーの訓練を行っているのです。間違ったら大事故になりますから、スピードを落とすわけにはいかず、爆音は大変なものです。文珠山からも、その周回飛行の様子が見えるようです。

岩国市民は FCLP は岩国で行わないことを条件にしているのに、沖縄から岩国へきてタッチアンドゴーの訓練を行っているというのは、ハテナ、ハテナです。今年の 7 月以降の戸村さんの写真からタッチアンドゴーの実態を抜き出してみます。

7 月 3 日

11:29



12:20



7 月 6 日 848 番機



7 月 20 日

14:16





7月 29日 13:29

8月 1日

12:33



12:46



8月 18日 13:14



9月 9日 16:40

9月 28日 15:34



9月 29日 15:19



ポセイドンは、同一機が基地周辺を7~8回ぐらい周回飛行、つまり、ぐるぐる回って飛ぶのですが、その間、5~6回ぐらい滑走路に着地（タッチ）し、停止しないでそのまま再び離陸するというタッチアンドゴーをします。これは決して遊びではなく、大真面目の訓練飛行なので、相当な爆音です。

沖縄から岩国まできてこの訓練を行うというのは、この訓練のためにわざわざ沖縄から岩国基地まできているのであって、たまたま岩国に来ている間にちょっと飛行訓練をするというようなものではないでしょう。

参考までに「静かな空」No. 48(2016. 1. 15.)に掲載した、岩国基地のタッチアンドゴーの写真を、もう一度紹介します。

空中給油機スーパーハーキュリーズ

(岩国基地所属)

大島から基地へきて基地上空を周回して

滑走路に着地（タッチ）して

砂ぼこりがまきあがったが、停止しないで



再び上昇して基地上空を周回する。



戦闘攻撃機ホーネット（岩国基地所属）

周回飛行から地上すれすれまで降下。

このあと滑走路にタッチして



再び上昇して周回飛行にもどる



沖縄でまたヘリ墜落 2017.10

住民「起こるべくして起こった事故だ」



三浦で米軍機墜落 1971.9

二度と落ちないという保障はない



オスプレイ事故続発のあとに、また沖縄でヘリコプター墜落の事故がありました。住民は「集落に落ちたら無事では済まない」とおびえています。小野寺防衛大臣は「安全な運航をするよう米側には強く申し入れたい」と語りましたが、沖縄平和運動センターの岸本さんは「基地がある限り、事故は絶えない。訓練の即時中止と米軍の早期撤退を求めるしかない」と語り、ヘリ基地反対協議会の仲本さんは「いつまで実質的に占領されなければならないのか」と悲憤しました。日本警察は手出しできない状態とのことです。（中国・朝日 10.12）

1971年に文珠山（住宅地から2～300m）に米軍機スカイホークが墜落したときは山火事発生、住民が消火にかけつけましたが、乗員1人は即死。頭部がちぎれ飛んで紛失しました。米軍は「頭」とはいわず「ヘルメット」を探せと指示、住民総出で带状に手をつないで山探ししましたが、ついに見当たらなかったようです。今も山中にひっそりと残されているのかもしれませんが。

2006年5月、住民の探索で尾翼の残骸などが多数発見されました。（右写真）

新入会員 河本正道 自己紹介と提案

1947年5月12日生まれ（70歳）。姉3人、兄1人の末っ子として柳井市伊保庄に生まれる。みんな健在である。家族はこども3人、孫2人である。18歳で大阪に出る。28歳のとき日前出身の妻と結婚する。

59歳までは民間会社（貿易関係）に勤め、退職後市役所の社会福祉課（生活保護）で臨時職員として10年間勤める。

青年時代は青年運動（黒田大阪府知事の実現）に没頭して、京都府、東京都、神奈川県で革新知事が次々と現れ、日本全体の革新を夢見たものである。70年代終わりに「社公合意」を契機にして、社会党は革新運動の道から外れ、総評は無くなり、日本の組合労働運動は右傾化していくことになる。こうした状況のなかでも、政治運動、市民運動に関心は持ち続け、現在に至る。

今年5月に周防大島町日前に移住してきたので、「守る会」の会員として「岩国基地問題」を周りの人にどう発信していけばいいのか、みんなで考えていきたい。

10月8日付朝日新聞3面コラム「日曜に想う」のなかの、長野県飯綱町議会議長の提案に注目したい。下記の通り（政策サポーター制度として現在実践中とのこと）：

町議会は町の人々をうまく「代表」できていない。

議員に若者も女性も少ない。

町民がどんな問題を抱えているか、どんな気持ちか、よくわかっていないのでは。

そう考え、議員ではない住民を集め、議員との議論や政策提言をしてもらう仕組みなどを工夫してきた。

周防大島町議会の議員さんたちに提案してみてもどうか。3年後に若者や女性の代表を議会へ送り込んでどうか。

文珠山頂上でテレビ取材

10月9日、YABテレビが文珠山で米軍機爆音について取材。（放送12日）

周防大島町は米軍機離着陸訓練の飛行コースであり、艦載機61機が移駐すると周防大島町の爆音が激しくなり、三蒲が騒音指数W70以上の地域となると説明、三蒲小の騒音測定器の下で、町民に現在の爆音の状態を聞きました。

「我慢できないですね」。「ここら辺が一番やかましい」。「都会に出た子どもが大島に帰りたいと言い、親も帰ってほしいと願っても、この爆音ではとても帰ってくることはない。現在、町人口は年平均1%減少しているが、艦載機移駐で爆音が激しくなると、人口減少が一段と進む」などなどの声。

選挙について意見を聞くと、「とにかく地元の声を聴いてほしい」。「税金を納めている者を無視してやっちゃいけない」など、厳しい意見が出ました。